

EVIS X1特集

内視鏡診断・治療の質向上に 貢献するEVIS X1

当社が、主力の消化器内視鏡システム「EVIS X1」を欧州、アジア一部地域、日本で発売してから約2年が経過しました。さらなる治療・診断の向上をもたらすさまざまなイメージング技術を備えたEVIS X1および、AI 技術を活用した病変の検出アプリケーションは世界中の内視鏡医から評価され、発売済み地域では販売が好調に推移しています。今回は、中でも市場浸透が進んでいる欧州における医師の反応をご紹介します。



*1 前世代のビデオプロセッサ(CV-190, CV-290)の販売台数

Technologies

TXI
構造色彩強調機能

粘膜表面の「構造」「色調」「明るさ」の3つの要素を最適化することで、病変部などの観察性能向上に貢献

EDOF
被写界深度拡大技術

焦点距離の異なる2つの画像を合成することにより、ピント調整の必要性を低減し、検査時間短縮や診断精度向上に貢献

RDI
赤色光観察

緑・アンバー・赤の3色の特定の波長の光を照射することで、出血点や深部血管などの視認性向上が支援され、止血処置を迅速かつ容易にサポート

スクリーニング → 分類 → 診断 → 治療

ENDO-AID CADe **BAI-MAC**

BAI-MAC

ハレーションを起こさずに近点の明るさを維持したまま、中遠景の暗部を明るくすることで、スクリーニング検査時の観察性能の向上に寄与

Application

ENDO-AID CADe*2
大腸病変の検出支援アプリケーション

EVIS X1と組み合わせることで、ポリープ、がんなどの病変候補を自動的に検出しリアルタイムに表示できることを目指した、AI技術を活用した大腸病変の検出支援アプリケーション

*2 2022年9月末時点で医薬品医療機器等法未承認品です

Customer Survey Results

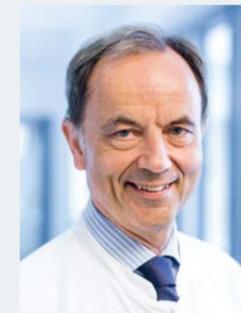
欧州の医師464人に EVIS X1の使用感を確認

～EVIS X1を使った感想を教えてください～



*3 2020年9月から2022年4月の期間、欧州の医師464人を対象とした当社の内部調査
*4 2021年6月から2022年4月の期間、欧州の医師68人を対象とした当社の内部調査

Doctors' Voices



Horst Neuhaus 先生
Evangelisches Krankenhaus (デュッセルドルフ/ドイツ) 教授

EDOFのおかげで、周辺部を含む内視鏡画像全体をはっきり見ることができ、これは重要なことだと思います。出血部位を正確に特定することが難しい場合もありますが、RDIを使用すると、医師は出血が起きている部位をより正確に特定することができ、治療に役立ちます。また大腸内視鏡検査では、小さな病変をよりよく検出するために、白色光ではなくTXIを用いることがよくあります。BAI-MACを使用することで、露出が過度にならずに、遠景の暗部まで全体を明るくはっきりと観察することができます。



Siegbert Faiss 先生
Sana Klinikum (リヒテンベルク/ドイツ) 教授

TXIを使用すると、画像が明るくなり、組織の表面構造と奥行きを簡単に認識できるようになります。表面構造がより強調されて見えるようになり、NBI*5と組み合わせることで、早期発見や血管の状態を観察する上で大きな利点となります。筋線維や血管がよく見え、白色光に比べて幅広い使い方ができるので、将来的にはTXIでの検査が一般的になると私は思います。私が役立つと思う他の技術はEDOFとRDIです。EDOFでは、焦点を切り替える必要がなく、常に焦点が合った画像を得られ、RDIの使用は特に深部血管における出血予防に有用です。

*5 Narrow Band Imaging: 粘膜表面の血管などの組織の視認性を高める光学イメージング技術